



セミナーのご案内

◆「納棺のすべて-亡き人を送り出すために」

～現役納棺師による納棺の実演をお見せします～

葬儀担当者と現役の納棺師が「納棺」について熱く語ります。

- * 亡き人をお棺に納める際に、なぜ「旅支度」をするのか？
- * なぜ、亡き人の体を拭くときに逆さ水を用意するのか？
- * きれいなお別れができるために納棺師は何をしているのか？

※まちゼミにも掲載中！

日時：3月30日㊤ 午後4～5時

定員：各回7名 参加費：無料

講師：上原 武史（式典部主任・一級葬祭ディレクター）

◆「お墓のあれこれ ～お墓・納骨堂・樹木葬・海洋散骨～」

お墓を造ることが、残された子供や孫にとって負担になるのでは？とお考えになる方もいらっしゃるようです。本当にそうでしょうか？

お骨はお墓に埋葬することが当たり前でしたが、ここ数年、海洋散骨や樹木葬、ロッカー式納骨堂など、お墓以外の方法も増えています。それらのメリットとデメリットについてもご説明いたします。

埋葬に伴う費用や、お墓や霊園選びのポイント、最近増えている改葬についてもご案内いたします。



日時：4月17日㊤ 午前10～11時

定員：10名 参加費：無料

講師：上原 武史（式典部主任・一級葬祭ディレクター）

- 両セミナー共に、こすもす斎場(八王子市元横山町2-14-19)で行ないます。
- 参加ご希望の方は、お電話にて事前にお申し込みください。(042-642-0921)

次回予告 5月下旬に「人形供養祭」を開催します。

詳細は次号の「こもれび」でご案内いたします。

言葉の力

毎朝目を通す新聞がこの三月二日で五万号を迎え、その特集の「言葉の力 信じて」というコーナーに、歌人の俵万智氏が新聞に寄せる思いを「体温を乗せ 責任を乗せて」と題して寄稿しています。

氏は、各地の方言は人と人のつながりを感じさせてくれる「温かみのある」言葉、だと言います。しかし、近年はネットの影響で体温がない言葉があふれているように感じられるとも述べて、こう続けています。

「こんな時代だからこそ言葉に体温を乗せ、自分の責任を乗せるといふシンプルなお守りを守りたい。(中略) あふれる情報の中から自分の気持ちのいい言葉だけを受け取ってしまいがちないま、私たち一人ひとりが受け手として言葉を見分ける力が必要になっていきます。」

また、オンラインでのコミュニケーションは便利ではあっても、責任のない言葉が行き交い、いじめにもつながるといふ負の面を見過ごすことはできないと指摘しています。

さて、私事で恐縮ですが、私の娘たちが進学する学校の入学金を郵便局から送金した時のことです。

窓口に必要な書類を出したところ、担当をしていた男性がニコリとほほ笑み、その学校がご自身の母校のことでした。

すかさず、「学校生活はいかがでしたか」と尋ねたところ、彼は直ぐに明るく胸を張って、「今、こうして働いています。」と答えてくれました。進学する私の娘たちへの素晴らしいお祝いの言葉です。この言葉こそ、まさに体温が乗り、ご自身の責任を乗せたものでした。

スマホもパソコンも、極めて便利な機器で、私は業務や物事の処理を進める上で、少なくともアナログ時代より数倍の量の案件をスピーディーにこなしています。

そのような状況の中、人間味を整える質的なものを提供してくれるのが、毎朝夕の新聞紙面であり、郵便局の男性のような素直な心の表現だと思います。いつまでも「言葉の力を信じる」ひとりででありたいものです。



原産国



幸せになるために

石浦 寿美 (最終回)

人として

株式会社すずらん代表 石浦寿美です。
今回で三回目のコラム掲載となります。最終のテーマは「人として」です。人は誰もが生まれた瞬間から死を背負って歩み出します。

私達人間は生物の中で唯一笑い泣くことができる生き物と言われています。人間にしかできない事は多く、読解力、創造力、コミュニケーション能力等、聞くこと(読むこと)、考えること(思うこと)、話すこと(書くこと)等々。

また、人間は「共感する」生き物とも言われていて、自分勝手な自己的性格をもつ性質と、人が困っていたら自分を差し置いてでも助けてあげようという性質が両方あるそうです。

例えば一艘の船のオールを何人かでお互い協力しながら漕げば効率よくスムーズに進んでいきます。この行動は自分の利にも他人の利にもなり、そんな「協力」ができるのが人間の能力です。

高齢化社会の現代では高齢化が進む一方で介護職員の人材が不足しています。せっかく介護の資格を取って介護職についても職場の人間関係で離職するケースが多いのが現状。

いったい何故でしょうか？賃金が安いから？身体にキツイ仕事だから？様々な理由はあるかと思いますが、介護員の離職率で一番多い原因は職場の人間関係です。

介護職員が不足している中で、必要ともいえる人間関係での離職は残念な問題でしょう。人間にしかできない能力と共感を構築できれば人間関係での離職率は少なくなるのではないかと。人それぞれ得手不得手がある事を踏まえた上で、共感し協力し合いながら同じ方向に向かい進んでいくことが大切だと感じます。

私が携わっている訪問介護の仕事でも、一人の利用者様へ数人の介護員が携わります。そんな数人の関わりの中で一艘の船に例えると、一本のオールが破損し、進むべき方向性が逆方向ではその船は転覆の危険にさらされます。オールの点検を怠る人、文句を言うだけの人、誰かが直してくれると待つ人、何も言えない人、様々な人がいる中でどうすべきか。



チューリップはどこから来たの？

春のおとずれを感じさせる日差しが差し込むようになってきたこの頃。季節の花も咲き始めています。赤・白・黄色、どの花見ても綺麗ですね。

子どもの頃からなじみの深い春の花と言えば、桜やチューリップでしょう。チューリップ日本一の球根栽培面積を誇るのは富山県です。日本は世界中でも第6位に位置する生産国です。

さてそれでは、チューリップの原産地はどこでしょうか？オランダ？ 富山県？ 風車を背景に一面のチューリップが咲いている景色を思い浮かべることができますか？

実はチューリップの原産地は中東のトルコ共和国です。標高の高い荒野や高山地帯の強い風に吹かれながら花を咲かせています。その姿は園芸用に改良された姿とは程遠く、草丈は十〜三十センチほどで花を咲かせます。



大谷知久 第18回・最終回

植物と遊ぶ・植物と暮らす

六枚の花びらを開いた姿は皆さんの知っているチューリップとは全く異なるものです。品種改良の基となった祖先(原種)ですが、園芸店などで手に入れることができます。

園芸品種のチューリップは夏に球根が腐ることが多いですが、原種の性質は強く、植えっぱなしでも三年程度は春に顔を出してくれるでしょう。その後はいつの間にか庭から消えていることが多いですが…。

チューリップの品種改良の歴史は四百年以上に渡ります。その間、さまざまな品種が生み出されては消えていきました。ユリ咲きやフリフリのついたフリンジ咲き、花の色も数多く存在します。中には香りのある品種も存在します。

春の季節には園芸店やホームセンターに沢山の品種が並んでいますのでぜひ探してみてください。

三年に亘る小紙の担当は今回で最終です。皆様には長い間お付き合いいただきまして誠に有難うございました。私の好きな植物をさらに勉強して、またいつか小紙で紹介したいと思っています。その時はよろしくお願いいたします。



原種



原種

「ハワイでクジラに会おう」

伊藤 恵里子
(第13回)

現在はコロナで、ハワイに行くことが難しくなっていますが、もし冬の時期に行くならおススメしたいのが、ホエルウオッチングです。

なぜ、冬の時期にハワイでクジラに会えるのでしょうか。ザトウクジラはアラスカや北極海で夏を過ごした後、冬になると出産や子育てをするため、メキシコやハワイの暖かい海を求めてやって来るといのがその理由です。

ハワイ近海を訪れるのは、十二月から四月頃にかけてです。クジラが多く集まる、マウイ・ラナイ・モロカイの三島に囲まれた海域は、ザトウクジラ保護区に指定されているので、ホエルウオッチングに最適で、この時期は運が良ければ、小さいながらも沖を泳ぐクジラの姿を海岸線から見ることができず。

確実にクジラと出会いたい方は、十九世紀に捕鯨で栄えた港町マウイ島ラハイナからツアー船に乗るのが良いでしょう。ボートから客船までいろいろなおツアーがありますが、残念ながら日本語のツアーは少ないようです。英語

の説明はわからなくても大丈夫。周りの人の動きでどこにクジラがいるかわかりますし、なにより野生のクジラを見るという醍醐味は充分味わえますのでご心配なく。ザトウクジラは水面に上昇すると、呼吸のため頭の上の孔から高さ四〜五mの潮を吹き上げます。このブローと呼ばれる潮吹きは、子供のクジラは三〜五分おき、大人でも十〜十五分おきなので、それがクジラを見つける目印になります。

離島まで行くのは、日程的に難しいという方でも、この時期ハワイに行くなら、是非ホエルウオッチングのツアーに参加したらいかがでしょうか。私も三月末のホノルル滞在の時に参加し、何頭も見ることができました。初めて見るクジラは本当に大きく、大海原をゆったりと泳ぐ姿に、感動さえ覚えしました。

冬といえども、甲板で浴びる日差しは予想以上に強いので、日焼け止めとサンングラスを持って行くのがいいでしょう。クジラに出会えてきつと良い思い出を作れること間違いなしです。

リーダーを決めて船に乗る前の点検をし、目標に向かう為の説明をし、一番重要な事は全ての人が正しく共有することです。人間にしかできない協力、それができれば船はスムーズに進進し最速で岸まで辿り着くでしょう。

私は先日、ある在宅医の先生のお聞きしました。「医療も介護も他の人も目の前に死にそうな人がいたら助けるだろ」と。この言葉の意味は、人としての優先順位はどうあるべきかとゆうこと。大震災や天災、コロナ禍においても沢山の人が戦いながら考え、乗り越えようとしています。

人であるからこそ生きていく中での問題やリスクは避けられませんが、解決策を生み出す事ができるもの人です。ロボットやAIといった人工知能が日々進化する中で人として、人にかできない事を大切にしながら笑顔で日々の生活を過ごしたいですね。

私自身、溝口祭典会報紙を通じて人としての繋がりを感ずることができました。貴重な経験をありがとうございます。



すずらんテーマ曲(社歌)
すずらん く幸せになるために

作詞・作曲 石浦 寿美

ひとつひとつ風に揺られ 隣あわせに咲いている
他の誰にも負けないくらい 強く生きている

ひとりぼっちの花を見つけたら すぐに集まり束になる
元気がない花を見つけたら 元気を分け合い咲かせてる
純粋さを忘れてたなら 誰かが気づいて教えている

ひとつひとつ風に揺られ 隣あわせに咲いている
他の誰にも負けないくらい 強く生きている

巡り合えたこの世の中で 感謝しながら生きていく
笑い合えれば幸せだから そんな…すずらんが
(いえい♡!) 咲き誇る ↑↑↑

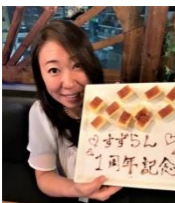
こんなに笑い合える毎日が ある事なんて気づいたのは
貴方にとつて幸せだから 心の底から
(いえい♡!) 伝えよう ↑↑↑

~~~~~

こもれび読んで、  
ハワイに行こう!



いしうら すみ / 株式会社すずらん 代表取締役。2017年株式会社すずらん開設、2018年4月訪問介護ケアサポートすずらん開設、2020年9月訪問介護ケアサポートすずらんサテライト越野開設。「幸せになるために」をテーマに、在宅での生活をサポートする訪問介護サービスを、梶田町を拠点に展開している。介護だけでなく医療分野にも強いつながりを持っている。利用者様、従事者が共に幸せと感ずられるような事業所を日々目指しながら運営しています。



# 『お箸と風呂敷でぬくもり溢れる平和な世界を』

第3回 ～お箸と日本人～

浅海 理恵



あさみ りえ／株式会社レ・ミゼラ 代表取締役、Les Misera Culture School～日本に息づく心配り～運営 講師。音楽・舞台業界、製菓医学業界での勤務経験を経て、2011年3月15日に独立。事務業務の代行を行う事業を営む傍ら、『お箸と風呂敷は心を育ててくれる存在である』という想いのもと、“お箸”と“風呂敷”をアイテムとして“日本に息づく心配り”の伝承に努めている。1児の母。

◎ 浅海先生が YouTube チャンネルを開設されました。 YouTube チャンネル名『RieAsami』



Les Misera Culture School  
関連サイト



<https://linktr.ee/misera>

皆さま、こんにちは。

前回のコラムにおきまして、お箸が日本において独特の文化を持つようになった背景には、八百万の神々を崇める「神の国・日本」ならではの観点が存在するからであると記しました。今回は歴史の側面から、それを紐解いてみたいと思います。

『魏志』倭人伝の記述を参考に、弥生時代における我々日本人の主たる食事方法は、手で食事をする「手食」であったと言われていました。「お箸」を用いて食事をしていたのではないのです。では、私たち「お箸」との関係はいつ頃からできたのでしょうか。

確認されている日本最古のお箸は、伝飛鳥板蓋宮跡から出土した檜製のお箸ですが、その形状から、このお箸は現代のような食器用ではなく、祭祀・

それには諸説ございますが、その一つに「は」「し」という文字に意味があるとする説がございます。「は」と「し」。これらは音ひとつひとつに意味を持つ「やまとことば」であるという観点から発せられている説です。「は」には端点、先端という意味があり、「し」にはくつつける、固着する、つなぎ止めるという意味があります。現代でも存在する同じ音の言葉に「橋」がありますが、これも対岸と対岸、端と端を繋ぐモノです。箸「箸」についても「神さまと私たち」を繋ぐモノとして、この二文字が充てられたと言うのです。

儀式用であったとされています。また、箸拾い（流れ）伝説、箸浮かべ神話、箸墓神話などから、お箸は元来祭祀・儀式における祭器として重要な役割を果たしていたとされているのです。そうです、お箸のお話は神話の世界『古事記』から始まります。「は」「し」という二つの文字が記された最古の書物、それが『古事記』なのです。ここで『古事記』のお話の一部を簡単に紹介しましょう。

神の国を追われたスサノオノミコトは、人里を求めさ迷い歩いておりました。ある時、喉が渇いたので、近くに流れていた川に立ち寄ります。喉を潤しているとき、そこに「はし」が流れてきました。「はし」が流れてきたのを見たスサノオノミコトは「この川を上流に辿って行けば、必ず人がいるはずだ！」と確信し、上流に向かって歩いて行きます。すると、おいおいと泣

そう言われてみれば、先に記したようにもともと「お箸」は食器用ではなく、祭祀・儀式用、つまり神さまへ行う所作において用いるモノとして存在していました。そしてやまとことばは、中国からの漢字の伝来より前に存在しています。「箸」の読み方が日本に漢字が伝わった後に充てられたならば、中国語で「箸(チウ)」と読むように、韓国語で「저(チョ)」と読むように、日本でもチヨやチョと呼んでいたのではないかという話もあるのです。

いずれにしても、日本人にとっての「はし」とのかかわりに関するお話は『古事記』にまで遡り、お箸は「神の国・日本」において神さまに通ずる存在として日本人の生活に深く根付き、神話の時代から、この令和の時代の今、この瞬間に至るまで、常に人生に寄り添い、存在しているのです。



いているアシナヅチ・テナヅチという夫婦に出会います。泣いている理由を尋ねたところ、その夫婦には沢山の子供がいましたが、皆、人身御供としてヤマタノオロチに食べられてしまったと言います。そしてただ一人残った娘・クシナダヒメも間もなく食べられてしまおうと言ったのです。それを聞いたスサノオノミコトはヤマタノオロチ退治を引き受け、見事退治します。そしてスサノオノミコトは、クシナダヒメと仲睦まじい夫婦となるのです。

出てきましたね、「は」「し」の二文字。「はし」が流れてこなければ、スサノオノミコトは違う方へ歩いて行ってしまうていたかもしれせん。正しく「はし」が「縁結び」をしたと言っても過言ではないのです。神さまのご縁をも結ぶ神聖な存在として登場した「はし」。何故「はし」だったのか。なぜ「はし」と呼ぶモノだったのか。

『箸使いは人となり』  
この言葉の奥には、八百万の神々への想いが存在します。そしてお箸には、八百万の神々との繋がりがやが縁が表現され、故にその扱い・所作には、数多への尊敬と感謝の心と、その心を抱き、表現するということの要素が沢山詰まっているのです。だからこそ、日本においてお箸は、神聖なる存在として、心を込めて大切に扱わなければならないのです。

\* 豆知識 \*

ちなみに最初にお箸を「食器用」として使わせたのは聖徳太子と言われています。そして手食の後、主に匙を用いて食事をするようになった日本人ですが、奈良時代頃にはその匙の欠落と反比例するようにお箸が万能の食具となり始め、鎌倉時代に入ってからようやく、乞食に至るまで箸と椀を使用するようになったと言われています。

参考文献：高倉洋彰氏著『箸の考古学』、向井由紀子氏 橋本慶子氏著『箸』、株式会社兵衛門HP